



不可能を、  
可農にしよう。

- P1 株主のみなさまへ
- P4 財務情報
- P6 上半期トピックス

TODA農房で今年収穫した紅ほっぺ  
小さいいちごの、大きな挑戦が  
始まっています(@・:・@)ノ

戸田建設は農業6次産業化を軸に、地域社会の未来づくりに挑戦しています。

大きな課題となっている農業振興や地方創生。従来の取り組みでは解決が不可能にも見える局面を打開するために、戸田建設がいち早く官民連携で参画したのが、農業6次産業化を軸とした地域の未来づくりです。実証施設「TODA農房」(茨城県常総市)で、いちご栽培から販売まで、農業に初挑戦。IoTを活かし、スマートで事業性の高い農業モデル確立とノウハウ習得を目指しています。新しい農業を追求し、地域とともに明るく未来へ。私たちの挑戦は続きます。

“喜び”を実現する企業グループ





代表取締役社長 **今井 雅則**

### ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当上半期(2018年4月1日～2018年9月30日)の決算概要とともに、経営計画の進捗状況につきましてご報告いたします。

### 当上半期の概況

当上半期における国内景気は、雇用、所得環境が改善するなど、緩やかな回復が続いております。建設業界においては、製造業からの工事受注が増加したものの、非製造業及び官公庁工事が減少したことで、全体として前期と比較し減少しております。

このような状況の中、当上半期における当社グループの業績は、連結売上高につきまして、主に当社個別の売上高の増加により、全体としては前年同期比11.8%増の2,030億円となりました。

営業損益については、売上総利益が252億円と前年同期比2.8%の減少となりましたが、これについては前年同期において好採算の追加工事の獲得が特に多かったこと等が主な要因となっており、当上半期の業績としては概ね計画通りに進捗しております。また、販売費及び一般管理費が149億円と前年同期比9.3%増加し、営業利益は103億円と前年同期比16.2%減少となりました。

経常利益については、受取利息及び保有する投資有価証券の受取配当金等により、118億円(前年同期比12.5%減)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益については、82億円(前年同期比19.4%減)となりました。

## 経営計画の進捗状況

当社グループは、現在、2019年度を最終年度とする中期経営計画を推進しています。本計画では持続的成長に向けて、事業・技術・人財に対する投資を推進しております。

国内建設事業におきましては、独自技術の開発・適用を推進するべく、筑波技術研究所(茨城県)において、既存施設を解体し、新たに複合実験棟の建設に着手いたしました。本施設は、2019年10月に完成し、建設材料の高強度化に伴う実験機器を設置するほか、土木分野でも使用できる地盤・杭基礎実験等を屋内で実施できるようになります。

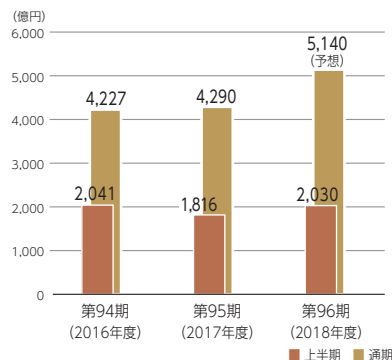
また、東北エリアを営業基盤とする佐藤工業株式会社(福島県)の株式を2018年12月14日(予定)に取得し、子

会社化することといたしました。このことにより、技術・ノウハウ・人財の相互活用を進めるほか、環境・エネルギー等の収益領域の拡大を図るなど、地方ゼネコンとの新しい連携体制を確立してまいります。

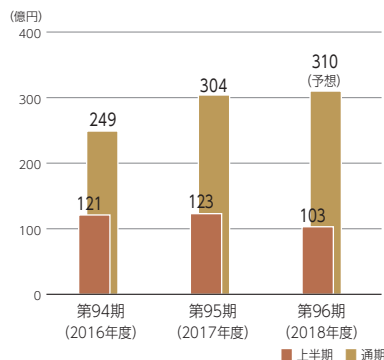
これらを含めて、今年度は約380億円の投資を予定しております。船場ビル(大阪府)を取得したほか、当社南砂工作所跡地(東京都)の有効活用に向けて企業寮を新たに建設するなど、投資開発事業に注力してまいります。引き続き、長崎県五島市の浮体式洋上ウインドファームの建設などにも取り組み、収益基盤の多角化に向けた投資を推進してまいります。

## 財務ハイライト(連結)

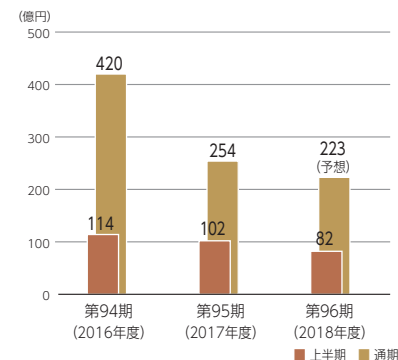
### 売上高



### 営業利益



### 親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益



## 下半期に際して

今後の経営環境を見ますと、資材・労務の逼迫等による建設コストの上昇などの懸念事項を残しており、不透明な状況が続くものと予想されます。

下半期におきましては、引き続き、継続的かつ安定的な価値創造と収益の拡大を目指し、各事業の更なる強化に取り組んでまいります。また、本社仮移転(2019年12月予定)を契機に働き方改革を進め、生産性・創造性の向上とともに、人財の多様化を図ってまいります。

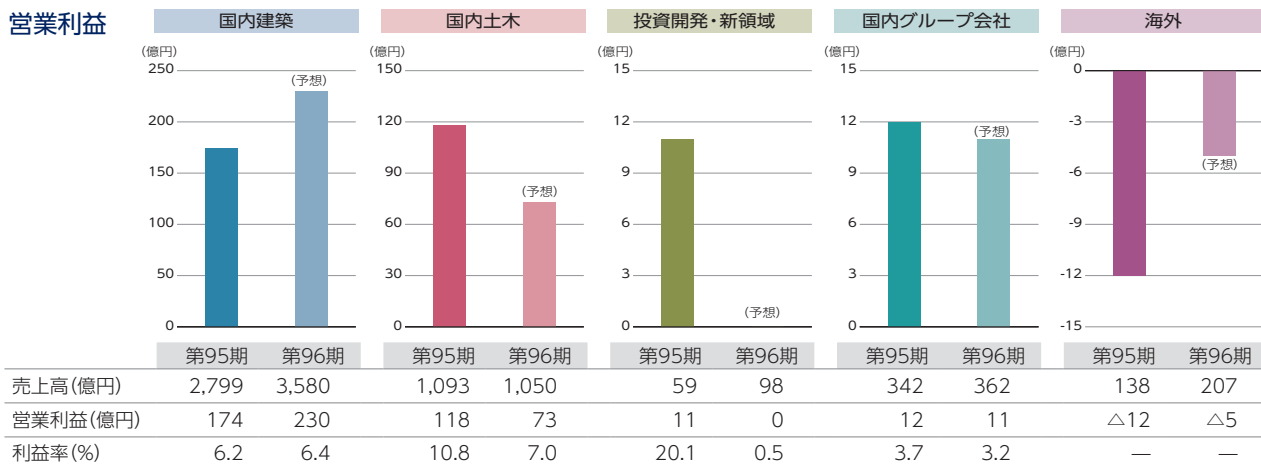
こうした状況を踏まえ、当期通期の業績は、連結売上高5,140億円(前期比19.8%増)、営業利益310億円(同1.8%増)と予測しております。

事業別業績(営業利益)の見通しにつきましては、国内建築230億円、国内土木73億円、投資開発及び新領域0.5億円、国内グループ会社11億円、海外△5億円を見込んでおります。

なお、1株当たりの年間配当金は前期と同額の20円を予定しております。

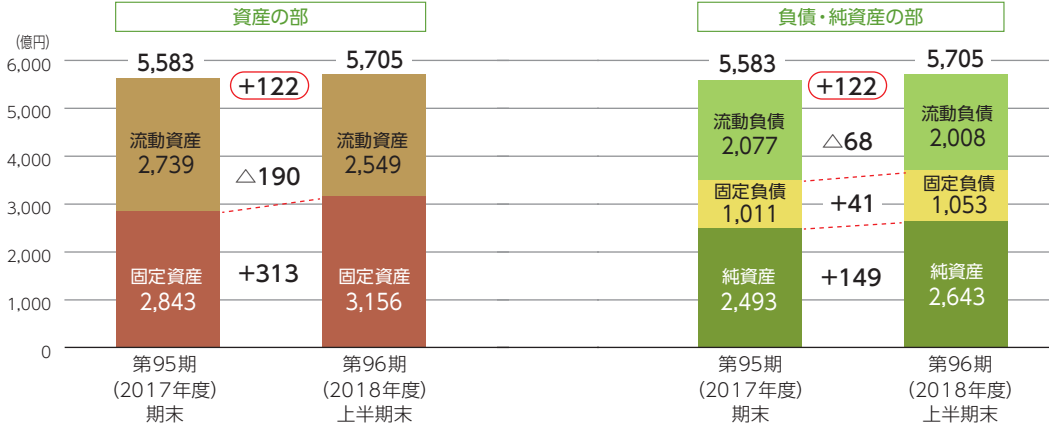
引き続き、グローバルビジョンに掲げる「喜び」を実現する企業グループ]に向けて邁進してまいります。株主の皆様におかれましては、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 事業別業績(前期実績および当期見通し)



※新領域は、エネルギー関連及びその他新規事業  
※数値には連結消去を含んでいる

### 連結貸借対照表



#### 資産の部

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、有価証券が200億円減少しましたが、土地が115億円、投資有価証券が184億円増加したことなどにより、前連結会計年度末と比較して122億円増加の5,705億円(2.2%増)となりました。

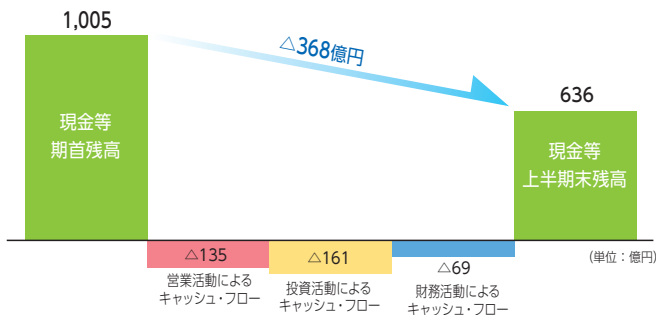
#### 負債の部

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、未成工事受入金が53億円増加しましたが、支払手形・工事未払金等が58億円、賞与引当金が16億円減少したことなどにより、前連結会計年度末と比較して27億円減少の3,062億円(0.9%減)となりました。

#### 純資産の部

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、保有株式の時価の上昇に伴うその他有価証券評価差額金の増加128億円などにより、前連結会計年度末と比較して149億円増加の2,643億円(6.0%増)となり、自己資本比率は45.8%となりました。

### 連結キャッシュ・フロー 第96期(2018年度)



#### 連結キャッシュ・フローの状況

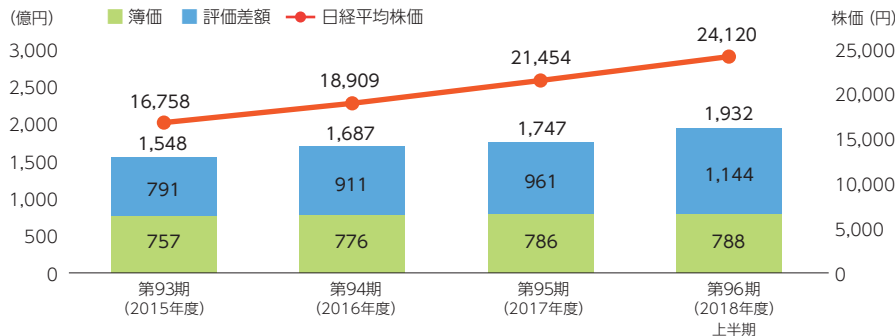
営業活動によるキャッシュ・フローは、135億円の資金減少(前年同四半期連結累計期間は150億円の資金増加)となりました。未成工事支出金の増加により68億円、仕入債務の減少により58億円、売上債権の増加により36億円の資金が減少したことが主な要因です。

投資活動によるキャッシュ・フローは、161億円の資金減少(前年同四半期連結累計期間は39億円の資金減少)となりました。補助金収入により29億円、投資有価証券の売却及び償還により21億円の資金が増加しましたが、有形固定資産の取得により185億円、投資有価証券の取得により18億円の資金が減少したことが主な要因です。

財務活動によるキャッシュ・フローは69億円の資金減少(前年同四半期連結累計期間は60億円の資金減少)となりました。配当金の支払により61億円、借入金の減少により7億円の資金が減少したことが主な要因です。

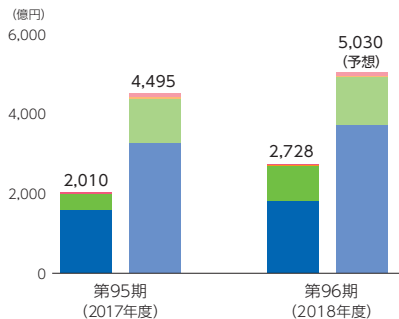
この結果、当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前期末と比較して368億円減少し、636億円(前年同四半期比322億円の減少)となりました。

投資有価証券の推移(連結)

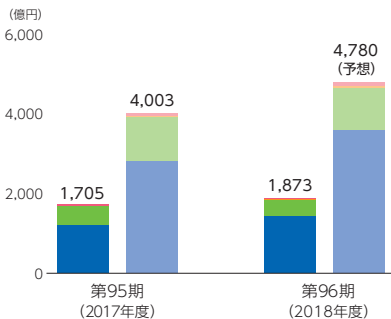


保有株式につきましては、コーポレート・ガバナンス方針に基づき、中長期的な企業価値の向上に資するかどうかの観点から保有継続について判断することとしております。2018年度中の株価の変動により評価差額が増加したことなどにより、投資有価証券の当第2四半期末残高は1,932億円となりました。  
なお、損益への影響としては、営業外収益に受取配当金16億円、特別利益に売却益9億円が含まれています。

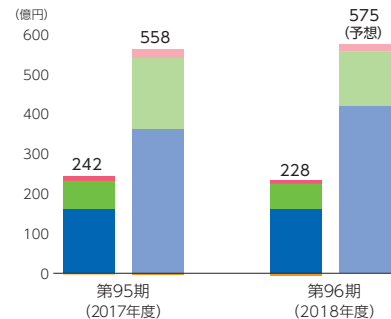
受注高(個別)



売上高(個別)

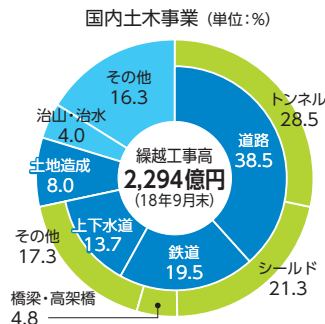
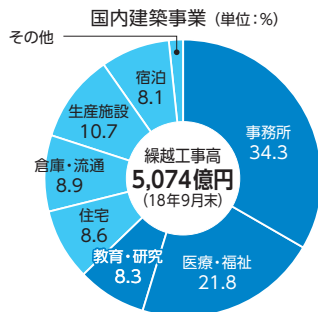


売上総利益(個別)



建設事業 国内建築：■上半期 ■通期  
国内土木：■上半期 ■通期  
海外：■上半期 ■通期  
投資開発事業等：■上半期 ■通期

繰越工事・工事種別内訳(個別)



## 4月 【格付情報】 当社の発行体格付けがBBB+からA-に格上げ

格付機関名	長期債	格付の意味 (各機関のホームページより)
格付投資情報センター (R&I)	A-	信用力は高く、部分的に優れた要素がある。

### 【格付理由(抜粋)】

競争力は準大手でトップクラス。採算管理体制が定着、競争優位性を利益に結び付けやすくなっている。全体として基礎的な収益力が高まったと判断し、発行体格付けを格上げた。

## 5月 女性活躍特別授業「リケジョ編」を実施 女子高校生に建設業で働く女性の活躍を伝える

2018年5月9日、土佐女子中学高等学校\*(学校長: 荒川操)において、高校1年生約200名を対象に女性活躍特別授業「リケジョ編」と題した授業を行いました。本件は、「生徒の進路選択の参考となる機会としたい」という同校からの依頼に沿って、生徒の皆さんが十分な情報を得にくい「建設業」や理系の女性活躍の状況などについて、わかりやすく、伝わりやすい内容となるよう配慮し、当社で働く理系女性社員によるパネルディスカッションを中心に実施したものです。

\* 明治35年創立の名門私立中高一貫校。「真の教育は私学にあり」という信念に基づき、「女性ならではのあり方」を意識した教育に価値を置き、積極的に社会貢献できる自立した女性の育成を目指している。

### ● パネルディスカッション～ものづくりにたずさわる喜び～ (当社若手女性社員4名)

建設業及び戸田建設における女性活躍の状況について具体的なイメージを実感できるよう、若手の女性社員をパネリストとして、高校在学時の進路選択や当時の夢、建設業(当社)を選んだ理由、現在の夢などについてのディスカッションを行いました。



当社は、今後も建設業で働く女性の活躍の紹介などを通じ、その魅力の発信に努めてまいります。

## 5月 半潜水型スパッド台船 「FLOAT RAISER(フロートレイザー)」が完成 —浮体式洋上風力発電の低炭素かつ効率的な施工を目指して—

戸田建設株式会社と株式会社吉田組の共同出資会社であるオフショアウィンドファームコンストラクション合同会社が、環境省の低炭素型浮体式洋上風力発電低コスト化・普及促進事業の補助を受けて建造を進めてきました。半潜水型スパッド台船「FLOAT RAISER(フロートレイザー)」が完成しました。



5月12日完成披露式典(五島市福江港)

### 【経緯】

本船は、再生可能エネルギーの中で最も大きな導入ポテンシャルを有する洋上風力発電の本格的な普及促進並びに温室効果ガス排出削減に向け、低炭素かつ効率的な施工手法を確立することを目的として、平成28年度より環境省の低炭素型浮体式洋上風力発電低コスト化・普及促進事業による補助を受けて建造したものです。

### 【特徴】

- 陸上で建造した、浮体式洋上風力発電施設のハイブリッドスパー型浮体を、バラスト調整しながら台船上に多軸台車等でロールオン(積み込み)し、沖合にて半潜水状態で浮体をフロートオフ(浮上・進水)できます。
- 岸壁で建造した、ケーソン等の重量構造物の進水も可能で、浮体式洋上風力発電施設や、着床式洋上風力発電施設の建設にも活用できます。
- 縦横どちらからでもロールオン(積み込み)が可能で、約5,000tまでの重量物に対応できます。
- 甲板上より7.4mまで潜水可能で、前後に傾斜を付けた状態で潜水できます。

### 【今後について】

本船を活用することにより、大型起重機船等が不要となるため、浮体式洋上風力発電施設を低炭素かつ効率的に施工できます。また、ハイブリッドスパーの施工の他に、スパー、ケーソン、ジャケット等のロールオン・フロートオフにも広く活用できるため、洋上風力発電の普及促進に大きく貢献できるものと確信しています。

6月

## 本社仮移転に伴う新しい働き方の試行

—3つのビルで新しいオフィス空間を設計—

本社ビル建替え※(2023年度完成予定)に伴う仮移転先を決定しました。仮移転先では働き方改革の一環として、当社が目指す自己発働型社員の育成に適したオフィス環境を構築し、効率的かつ知的生産性に優れたイノベーションを生む新しい働き方を試行します。

※当社は、他の事業者とともに本社ビル建替えを含む京橋一丁目東地区開発事業の事業主体として、芸術・文化の拠点形成によるまちづくりに取り組んでいます。詳細については<http://www.toda.co.jp/news/2016/20160307.html>をご確認ください。

### 1. 本社仮移転について

当社は、現在建設中の八丁堀2丁目ビル(下表No. 1)に2019年12月の移転を予定しています。なお、これに際し本社機能の一部と東京支店・首都圏土木支店を分散し、複数のビルに移転(2018年11月以降順次)する予定です。

No.	所在地	利用床面積	入居フロア数	所有区分
1	東京都中央区八丁堀2-8-5	約1,224.8坪	9フロア	自社
2	東京都中央区京橋1-18-1	約558.9坪	2フロア	賃貸
3	東京都港区芝浦3-9-1	約1,568.6坪	5フロア	賃貸

### 2. 仮移転先における新しい働き方の検証

現本社ビルに在籍している全ての社員(約1,200名、以下対象者)を対象に、以下の取り組みを行います。所有形態やオフィス面積など環境の異なる複数のビルで様々な検証を行います。

#### ① センシング調査

仮移転前に、対象者全員に勤務時間中ビーコンを着用させ、部門間の交流度合やオフィス内のスペース利用状況データを集積・活用します(実施中)。

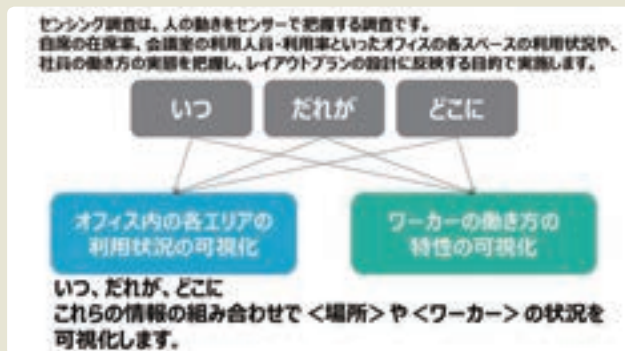


図1:センシング調査の目的

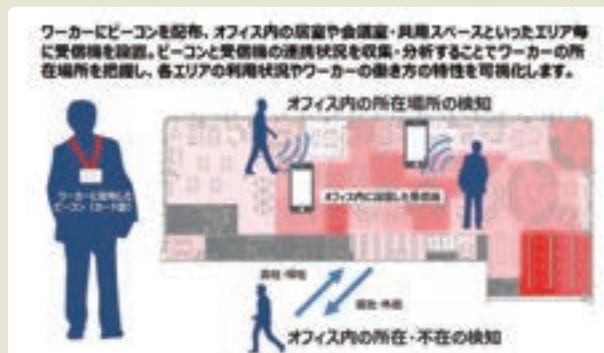


図2:センシング調査のイメージ



図3:執務室(イメージ)

#### ② 書類削減活動

仮移転前に、移転部署全体で70%の書類削減を図る活動を実施し、文書情報運用プロセスの見直しによるオフィスワーク改善と省スペース化を図ります。

#### ③ 新しい働き方の試行

センシング調査や、対象者へのアンケート調査の結果を踏まえた上で、自己発働型社員のあるべき姿を捉え直し、その育成に適した効果的なICTインフラ・ツール・サービスを導入したオフィス空間を設計し、移転先の社屋で新しい働き方を試行します。



## ヘルメットが見守ります！

-IoTを活用した建設現場の作業者安全モニタリングシステムを開発-

株式会社村田製作所(代表取締役会長兼社長:村田恒夫)と共同で、ヘルメット取り付け型センサデバイスにより健康状態を遠隔地からでも把握できる、作業者安全モニタリングシステムを開発しました。

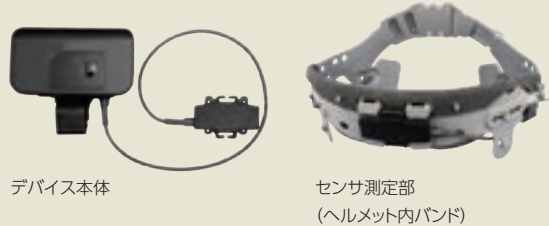
従来、建設現場では個人の主観に頼っていた健康状態の把握を、本システムにより『見える化』することで、より安心して働ける環境づくり整備が可能になります。

## 1. 開発目的

建設業界においては、過酷な労働環境における対策として、かねてより熱中症対策を含めた安全で快適な作業環境の整備に注力してきました。しかし、建設作業者数が年々減少し、高齢化が進む中、建設工事を進めるうえでも、作業者の健康・安全管理が一層重要なテーマとなっております。

また、今年も例年以上の猛暑となり、熱中症による健康被害が各地で発生し、大きな話題となっています。このところ、日本各地で、地球温暖化等の影響から気温の上昇や異常気象による大規模災害がたびたび起こっています。特に今年は、西日本豪雨という大規模な災害が酷暑の時期に発生し、復旧作業従事者が過酷な労働環境下で健康状態を悪化させるという二次災害も起こりました。

このため、上記のような厳しい労働環境で働く様々な作業者の健康状態を見る化して、リアルタイムに管理できる作業者安全モニタリングシステムを開発しました。本システムを様々な労働環境に広く普及させ、健康被害を未然に防ぐことを目標とし、作業者の安全の確保をより確実なものとすることを目指します。



デバイス本体

センサ測定部  
(ヘルメット内バンド)

写真1 作業用ヘルメットへの装着状況

## 2. 開発の経緯

本システムは、戸田建設と村田製作所の2社で2016年6月より、共同開発を進めてきました。村田製作所は、機器の開発と本システムの構築を行い、戸田建設は施工中の建設現場にて実証実験を行いました。また、2017年4月より、豊橋技術科学大学(都築教授)を含めた3社共同研究として、体調変化を予測するための研究を行いました。研究では、大学屋内実験と施工中の建設現場での実証実験結果を用いた検証を行うことで、体調変化の予測精度の向上に取り組みました。

このような協力体制において、本システムの開発を行いました。

## 3. システム概要

本システムでは、数種類のセンサを取り付けた測定器を作業用ヘルメットに装着(写真1)し、作業者の額表面部から生体情報を取得します。次いで、取得した生体情報を独自のアルゴリズムによって分析し、作業者の健康状態をリアルタイムに把握します。



図1 建設現場でのシステムイメージ

本生体情報を常時モニタリングできるため、作業者の生体情報に変化があった場合すぐに、アラート情報を発信します。受信側には、2種類の設定があり、PCと事前に登録した携帯電話等へのメール配信が可能です(図1参照)。PCではアラート情報確認画面にて、異常の発生時刻・作業者氏名・異常内容を確認できます。その情報により作業者に適宜休憩を取らせるなどの対応が可能となります。

9月

## 『ほんトダ!』プロジェクトを9月3日よりスタート

2021年に創業140周年を迎える戸田建設が  
ドラえもんコラボレーション!

戸田建設(株)(社長:今井 雅則)は、2021年に創業140周年を迎えるにあたり、国民の人気キャラクターであるドラえもんを起用した『ほんトダ!』プロジェクト(以下、本プロジェクト)を、ドラえもんの誕生日である9月3日(月)よりスタート致しました。

本プロジェクトでは、特設サイトの開設や全国約350カ所の建設現場の仮囲いにドラえもんが登場するなど、順次様々なコラボレーションを行っていきます。

### 1. 『ほんトダ!』プロジェクト発足の背景

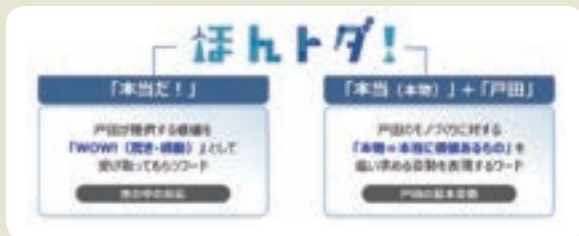
近年、国内の多くの産業で労働力不足が指摘されていますが、特に建設産業ではその傾向が顕著です。

戸田建設ではそうした背景を踏まえ、「モノづくり」の魅力を皆様に更にわかりやすく伝えるだけでなく、未来の建設業界全体を子どもたちが夢を持つ産業にするべく、2021年に当社が創業140周年を迎えるのを控え、本プロジェクトを立ち上げる運びとなりました。

### 2. 『ほんトダ!』プロジェクトとは

『ほんトダ!』とは、戸田建設が提供する価値を「驚き・感動」として受け取ってもらうワードと、戸田建設のモノづくりに対する「本物=本当に価値あるもの」を追い求めるという基本姿勢を表現するワードを組み合わせたプロジェクトネームです。

本プロジェクトは周年事業活動であるとともに、“これからの戸田建設”の企業価値向上を見据えた企業ブランディング活動として位置づけています。



### 3. ドラえもんとのコラボレーション

本プロジェクトを展開していくためのナビゲーターとして、国民の人気キャラクターであるドラえもんを起用します。ドラえもんが持つ未来感や親しみやすさを通じて、「新しい価値の創造」という戸田建設のミッションを、全世代の人々に対して伝えていきます。



### 『ほんトダ!』プロジェクト概要(9月3日時点)

#### ① 全国350カ所の建設現場に「ドラえもん」が出現!

戸田建設が施工する建設現場のうち全国約350カ所の仮囲いに「ドラえもん」のビジュアルが順次登場していきます。戸田建設の“現場”から未来が誕生する期待感を地域住民の皆様に発信します。同時に、SNSの活用なども検討していきます。



#### ② 『ほんトダ!』プロジェクト 特設サイトがオープン!

本プロジェクト活動を発信する特設サイトを開設します。

『ほんトダ!』プロジェクトに込める想いや全国350カ所で順次登場する「ドラえもん」の仮囲い情報など、様々なコンテンツを発信する予定です。

URL:<http://hon.toda.co.jp>



### ■ 会社概要

(2018年9月30日現在)

#### ● 主な事業所等

本店(東京都中央区京橋一丁目7番1号)

#### 支店

- ・東京支店(東京都中央区)・首都圏土木支店(東京都中央区)
- ・千葉支店(千葉市)・関東支店(さいたま市)
- ・横浜支店(横浜市)・大阪支店(大阪市)・名古屋支店(名古屋)
- ・札幌支店(札幌市)・東北支店(仙台市)・広島支店(広島市)
- ・四国支店(高松市)・九州支店(福岡市)

筑波技術研究所(つくば市)

#### 子会社

- ・戸田ビルパートナーズ(東京)
- ・アベックエンジニアリング(埼玉)
- ・千代田建工(東京)
- ・戸田道路(東京)
- ・戸田ファイナンス(東京)
- ・東和観光開発(広島)
- ・戸田スタッフサービス(東京)
- ・オフショアウインドファーム  
コンストラクション(東京)
- ・五島フローティングウインドパワー(長崎)
- ・日新ライフ
- ・アメリカ戸田建設
- ・ブラジル戸田建設
- ・タイ戸田建設
- ・ベトナム戸田建設
- ・他 3社  
(計18社)

#### ● 従業員の状況

従業員数 4,994名(連結) 4,016名(個別)

#### ● 取締役および監査役

代表取締役社長	今井 雅 則	常勤監査役	海老原 恵 一
代表取締役	鞠谷 祐 士	常勤監査役	大内 仁
代表取締役	宮崎 博 之	監査役	神谷 和彦
代表取締役	藤田 守 道	監査役	安達 久俊
取締役	戸田 守 道	監査役	丸山 恵一郎
取締役	大友 敏 弘		
取締役	植草 弘		
取締役	下谷 駿 宏		
取締役	網谷 節 介		
取締役	伊丹 俊 彦		

- (注) 1: 取締役下村節宏氏、網谷駿介氏および伊丹俊彦氏は、社外取締役であります。  
 2: 監査役神谷和彦氏、安達久俊氏および丸山恵一郎氏は、社外監査役であります。  
 3: 取締役下村節宏氏、網谷駿介氏、伊丹俊彦氏および監査役神谷和彦氏、安達久俊氏、丸山恵一郎氏は東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員であります。

### ■ 株式の状況

(2018年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 759,000,000株
- 発行済株式の総数 322,656,796株
- 株主数 10,222名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
大一殖産株式会社	38,315	12.48
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	13,978	4.55
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,467	3.08
一般社団法人アリー	8,977	2.92
株式会社三菱UFJ銀行	8,048	2.62
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S.TAX EXEMPTED PENSION FUNDS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	7,783	2.53
三宅 良彦	7,027	2.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,633	2.16
戸田 博子	6,611	2.15
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(リテール信託口 620090811)	6,002	1.95

- (注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式15,629千株があります。  
 2. 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

### ■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL.0120-232-711(通話料無料)
郵送先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.toda.co.jp/">http://www.toda.co.jp/</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

#### (ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

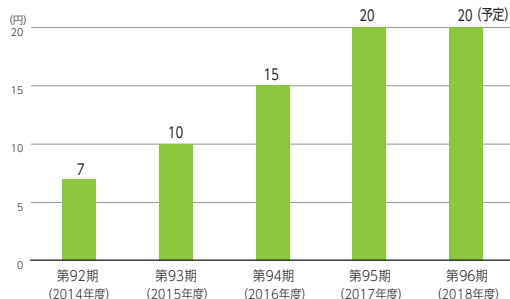
# 株主還元について

## 利益配分に関する基本方針および当期の配当

当社は、株主の皆様への継続的な安定配当の実施と、競争力および財務体質の強化に不可欠な内部留保の確保を勘案の上、業績および経営環境に応じた利益配分を行うことを基本方針としております。

当期の1株当たりの年間配当金は業績予想および今後の経営環境等を総合的に勘案し、20円とすることを予定しております。

1株当たり配当金推移



## 株主優待制度のご案内

当社では毎年9月末時点の株主名簿に記載または記録された1,000株以上保有の株主様を対象に、株主優待を実施しています。



### ■ 優待内容

当社グループが保有・運営する「ホテル&リゾート サンシャイン サザンセト」(山口県大島郡周防大島町)の株主優待券を贈呈いたします。

### 割引率

平日(日曜日～木曜日)	正規の宿泊料金より30%割引
休前日(金曜日・土曜日・祝前日)	正規の宿泊料金より20%割引

### 発行基準

所有株式数1,000株以上5,000株未満	2枚
所有株式数5,000株以上	4枚

### ■ ご利用方法

- ご予約の際に優待券面に記載された番号をご連絡ください。
- 株主優待券1枚につき1回あたり1室のご利用ができます。
- 本制度の対象となる客室は1日あたり5室までといたします。

“喜び”を実現する企業グループ

 **戸田建設株式会社**

〒104-8388 東京都中央区京橋一丁目7番1号  
TEL.(03)3535-1357  
<http://www.toda.co.jp/>

戸田建設

検索

[表紙の写真]

## 施設園芸実証ハウス「TODA農房(のうぼう)」

茨城県常総市内で、農業6次産業化に向け競争力のある農業モデル(施設園芸)の実証に取り組む「TODA農房」(昨年3月稼働)において、いちごの収穫を始めております。

「TODA農房」は、施設園芸事業への参入も視野に、農業6次産業化に向けて、取り組みやすく生産性の高い農業モデルの実証と周辺地域への普及を目的とする施設です。農産物の栽培・出荷・販売の実践を通じたノウハウの蓄積やIoTを活用した先端的な農業関連技術の開発により、競争力のある農業モデルを実証するほか、施設園芸を浸透させるための取り組みなどを行っています。



今後も引き続き自動制御システムの構築を継続するとともに、新しい品種や栽培方法などにもチャレンジし、更なる生産性の向上に取り組んでいきます。また、栽培の実践を通して蓄積された栽培環境、収量、品質、作業、販売に関するデータを解析し、常総IC周辺整備事業をはじめとした今後の農業6次産業化の取り組みに資する事業性に富んだ先駆的農業モデルの検討を続けてまいります。また、地域への情報発信等を通じて、施設園芸の地域浸透や住民の理解獲得など、常総市におけるアグリサイエンスバレー構想の推進に貢献できるよう、より一層取り組みを進めていきます。



見やすいユニバーサルデザイン フォントを採用しています。 環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。